

第6話

竜崎

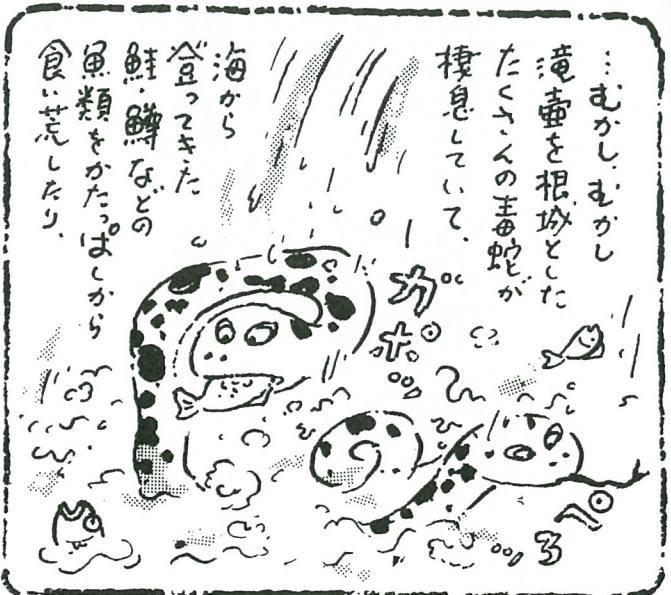
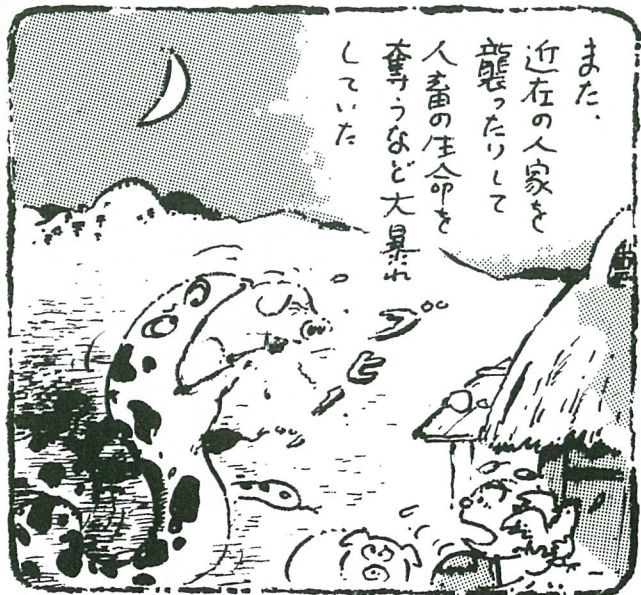
滝の形が乙の字に似ているところから  
 何時ごろからとはなしに  
 『乙字ヶ滝』と呼ばれるようになった



たまたが物の  
 民話と伝説

乙字ヶ滝と毒蛇

おつ じ が たき びく じゃ



ところが大同三年、東北地方の巡錫を続けていた弘法大師がこの事を聞かれ...

ようし、拙僧がその難儀を救って進ぜよう



一そして何日もの間一心不乱に「不動の法」を修められたので、毒蛇もついに滝壺から退散したのだという

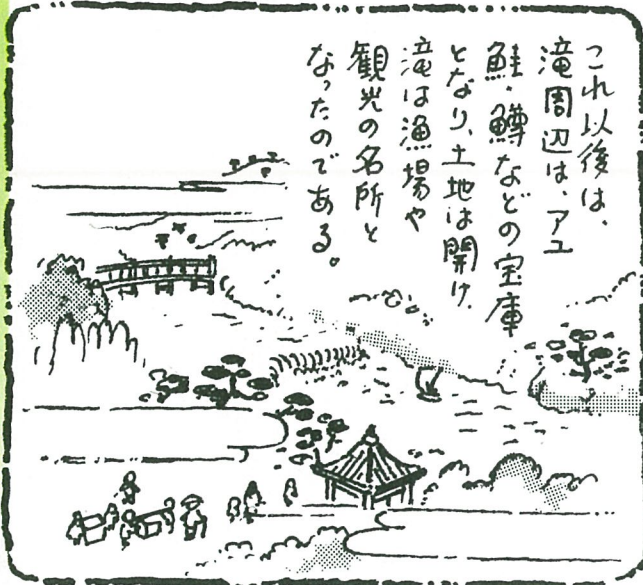


弘法大師はこの滝壺がふたたび毒蛇の棲家にならぬようにと、お堂を建て、自ら不動明王僧を刻みあげ安置したのである

大同三年四月八日



これ以後は、滝周辺は、アユ、鮭、鱒などの宝庫となり、土地は開け、滝は漁場や観光の名所となったのである。



白河藩時代には、ここに梁場をもつけ、鮭、鱒など最盛期には一日数百尾もの水揚げがあったという

「初漁は必ず徳川家や白河藩主に献上の羽白しであったという。



また、藩主の滝見不動尊によせる信仰も、誠に厚く、田畑や山林を寄進したという



殿さまは度々どいへあせかけのしらべ

滝見山 不動尊へご挨拶だよ